

山ごころ



吉本隊員

大滝せせらぎ

里ごころ



佐俣隊員

はたあと秩父

秩父市

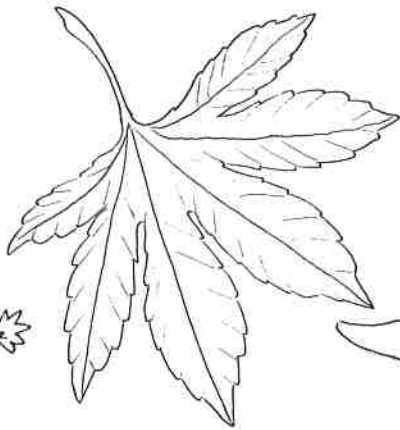


地域おこし

協力隊 長より

五月号

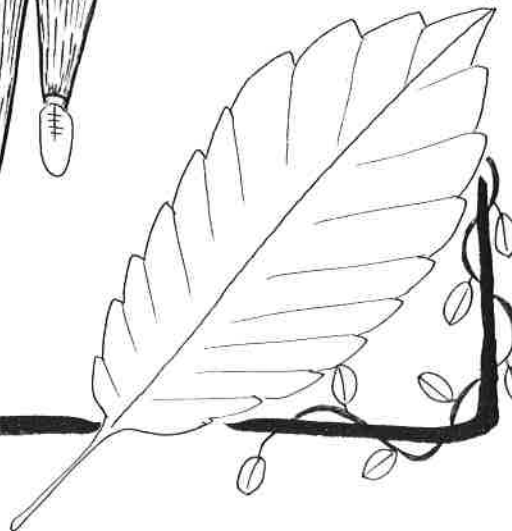
No.30



新緑

の季節に

なりました...



# ナイトバザール

4月18日、みやのかわ商店街にてナイトバザールが行われました。屋台囃子やフラダンスが披露され、とても賑やかな夜となりました。また、出店には今年初物の山菜や竹の子おこわが並び、春らしさを感じる事ができました。

私も出店させて頂き、おかしまんじゅうを販売しました。味は小豆餡と白花豆餡を用意しました。今までで一番多く作っていったのですが、お陰様で、完売しました！また、一度買ってくれたおじいさんが、「凄く美味しかったから」と追加で4つも買いに来てくれて、本当に嬉しかったです。

今後も試作を重ね、より美味しいおまんじゅうを作りたいと思います。

・ナイトバザールとは、

みやのかわ商店街にて偶数月(4月、6月、8月、10月)の第3土曜日午後6時半頃から行われます。歌ったり、踊ったり、毎月色々な面白い企画が行われ、参加者全員が楽しめるイベントです😊

秩父

# いっまんべえウォーク

4月11日と12日、秩父いっまんべえウォークが行われました。いっまんべえウォークとは市内をはいめ、横瀬や長瀬、皆野、小鹿野の、秩父郡市ならではの道のりを散策できるコースが用意されている、ウォーキング大会です。初日早朝はあいにくの雨でしたが、正午以降は晴れて、清々しいウォーキング日和となりました。私はスタッフとして、歩行者の道路横断の補助を務めていましたが、皆さん、思い思いの速度で春の秩父路を楽しまれました。

秩父郡市は自然豊かで、多くの歴史的な建物の残る地域なので、散策するのに適した地域だと思います。また、地元の人しか知らず、魅力的な散歩道もあると思うので、今回のように、一つのコースとして紹介することは、良いことだと思います。

秩父市 地域おこし協力隊

吉本 隆久

秩父市大滝総合支所 地域振興課

0494-55-0862 (課内)

a92116@city.chichibu.lg.jp

# はたおと秩父

## 昭和モダン<sup>4/3</sup>の絹衣<sup>4/12</sup>

ふるさと館の隣の絹の家にて、銘仙語り部である木村和恵さんの所蔵品の展示の第二弾が行われました。展示着物が変わり、暮らしが面白いとなりました。今回も着付け体験が行われ、また今回は秩父神社周辺の散策も可能となったため、街中で銘仙を着て歩く女性を見かけることができました。やはり銘仙は色柄が大胆なものが多く街中が華やかになります。着ている人たちもとても嬉しそうで、ぜひ今後もう一回いった機会を増やしていければと思います。

着物で写真をとる時は左右を少し後ろにずらして、つまり先に体重をかけて立つとキレイに写ります。



着物がキレイに写すポイントになります

# 春の銘仙館まつり

春の銘仙館まつりが今年もちちち銘仙館にて行われています。今年には後継者育成講座卒業作品展をメインに行っています。十三名の生徒たちが三年間かけて製作した綿や絹の反物や小物が展示されています。それぞれ感性でデザインした色柄の生地は個性的で、中にはマカロンの柄など現代的なモチーフのものもあります。ゴールデンウィーク中には機織りや製糸などの実演も行われます。

## 後継者育成講座

### 五期生開講!!!

四月十一日より後継者育成講座五期生目が開講しました。全員が初心者のため、機結びという切れた糸のつなばり方の練習からスタートしました。(私もこの結び方をマスターするのには時間がかかりました) 毎月第二、三、四土曜日に銘仙館にて開講していますので、頑張る生徒さんをぜひ見に来て下さいね!

## お問い合わせ

秩父市役所商工課 地域おこし協力隊  
伍俣 菜津子

TEL: 0494-25-5208

MAIL: syoko@city.chichibu.lg.jp

# 秩父歳時記5月

## 白石の神送り

開催日：五月第二日曜日

秩父はお祭の多い町!! その一部をご紹介します😊

## 塚越の花まつり

開催日：五月四日

もともとは月遅れのお釈迦様の誕生を祝う五月八日に行われていました。

二のお祭は秩父市吉田で行われ、子どもが主役です。子どもたちはお祭の前日までに椿、菜の花、つつじ、もくれんなどを野山から摘み熊野神社へ運びます。お祭の前日には熊野神社のお釈迦様の誕生仏を納める花御堂を花や木の芽で飾り付けをし、甘茶づくりをします。

お祭当日は朝七時の花火を合図に米山薬師までの参道を一列になつて花をまきながら進みます。米山薬師に着くと飾り付けた花御堂をお堂に納め、輪になつて花を空中にまき、誕生仏に甘茶をかけてお祈りをして下山して行きます。

地元ではこの日を春仕舞ほろいまいと呼び、これから夕忙となる養蚕、麦刈り前の束の間の休息日だったそうです。



東秩父村のお祭で、山々の新緑が輝く季節に疫病神送りが行われます。

まが竹を編み、ヒノキの葉で覆った神輿を作り、送り旗を用意します。また、家々ではカラガシと呼ぶ五穀を炒って紙に包んだオヒネソで家族の体をなで、疫病神をこのオヒネソに秘して神輿に送り出します。一人はホラ貝を吹き、数人の子どもたちは短冊をつるした小旗を持ち、てん合いの道をくだり、集落の境のカミオクリイワまで神輿を送り出します。

短冊には「風の神を送るよ」「奈神利神を送るよ」と書かれており、疫病神と共に風水害などをもたらす荒ぶる神々を村から追放し、村人の安全、幸福を願うお祭です。

「奈神利神を送るよ」と書かれており、疫病神と共に風水害などをもたらす荒ぶる神々を村から追放し、村人の安全、幸福を願うお祭です。

短冊には「風の神を送るよ」「奈神利神を送るよ」と書かれており、疫病神と共に風水害などをもたらす荒ぶる神々を村から追放し、村人の安全、幸福を願うお祭です。

短冊には「風の神を送るよ」「奈神利神を送るよ」と書かれており、疫病神と共に風水害などをもたらす荒ぶる神々を村から追放し、村人の安全、幸福を願うお祭です。

短冊には「風の神を送るよ」「奈神利神を送るよ」と書かれており、疫病神と共に風水害などをもたらす荒ぶる神々を村から追放し、村人の安全、幸福を願うお祭です。

